21

六左衛門　あのおからだでこの夜気におあたりなさつては……。

かつら　あたしたちさへ寒いくらゐだのう、ねえ、もう霜が下りてるやうだよ。

六左衛門　しかし、それにしても旦那さまが藤川の今日の仕草をお怒りなさるのは無理もございません。お嬢さまあれを御覧なさい。せつかく旦那さまが三千円にちかい大金をおかけなすつて、あのやうに御普請なすつたばかりの家を、[illegible]の障子も、ゆうべの床の柱まで引つ[illegible]して夜の明けぬうちに馬車で運び出すなんて、まあ何といふ恩知らずでございませう。

かつら　爺やあたしくやしくて……お父さまの心を察すると涙すらない。あれほどたのしみになすつておいでだつた[illegible]のらねえ。

六左衛門　それにあんな[illegible]におなりあすつたのでは、お気の毒なことです。いつ……

かつら　お父さまは新らしい家で死にたいとばかりいつしゐらつしやるにねえ。

MARUZEN I